

【理論編】

第1章

# 到達目標と評価

～バックワードデザインの授業づくり～



## 1.1 「目標」にのっとった指導計画について

### 「使える英語プロジェクト事業」の取組み

「使える英語プロジェクト」では、実践研究校の担当者会議（ワーキング会議）と、市町村教育委員会の指導主事による連絡会をそれぞれに実施しました。

ワーキング会議の様子



小学校の実践研究校担当者と市町村教育委員会の指導主事が、「活用の時間」についてグループ討議を行いました。



中学校の実践研究校担当者と市町村教育委員会の指導主事が、「指導と評価の一体化」についてグループ討議を行いました。

### ★ POINTS

目標設定は、「学校教育目標」からスタートし、「外国語（英語）の目標」、「外国語活動の目標」、「各学年の目標」とバックワード（逆算的）に設定しましょう。



義務教育終了段階で「どんな力をつければよいのか」を中学校区で想定し、それに向かってバックワードで目標や指導計画を作成することが大切です。

- 1 学校での教育活動の目的は「学校教育目標」の具現化です。そのためには、各教育活動のベクトルを学校の教育目標にそろえることが重要です。
- 1 中学校の「学校教育目標」と「外国語（英語）の目標」、小学校の「学校教育目標」と「外国語活動の目標」についての関連性を整理した後に、各学年や各単元の目標をバックワードに作成することが重要です。
- 1 バックワードに目標を設定することで、「どの段階でどんな力を児童生徒につけるのか、また、それをどのように評価するか」を考慮した見通しのある計画を作成することができます。
- 1 中学校では、各学年で「できるようになること」の一覧表（いわゆる「CAN-DO リスト」）を作成すれば、より具体的な目標を、生徒も教員も知ることができます。



### ★ Check Points

- 「学校教育目標」との関連性を整理した後、バックワード（逆算的）に各学年の目標が設定されていますか？

☆ 確認できたら **Work Sheet 1** を実際に作成してみよう。



## Work Sheet 1 目標の整理 (記入例 中学校の場合)

## 【学校教育目標】

安心して学べる楽しい学校づくりをとおして、一人ひとりが輝く

抽象的な  
イメージ



## 《○○中学校の外国語(英語)科の指導目標》

- Ⅰ 中学校卒業段階で、自分の考えや意見を英語で正確に伝えることができる力を育成する。
- Ⅰ 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合的に活用した授業を展開し、生徒の英語力を総合的にはぐくむ。

## [○○中学校3年生の目標]

## 【3学期】

- Ⅰ 教科書の内容について討論するために、いろいろな資料に書かれている内容を概ね理解することができる。また、調べた内容をまとまりのある文章で表現することができる。
- Ⅰ 討論において、相手の意見を正確に理解したうえで、自分の考えや意見を英語で正確に伝えることができる。

## 【2学期】

- Ⅰ 環境問題について扱った新聞や雑誌などを読み、それらの内容を記事としてまとめることができる。また、その内容についてポスターセッション及び質疑応答することができる。
- Ⅰ クラスメイト等が発表したポスターセッションの内容を、他者に紹介することができる。

## 【1学期】

- Ⅰ 馴染みのある場所や自分の住んでいる町などについて紹介文を書くことができる。また、その内容について ICT 機器を使いながらプレゼンテーションをすることができる。
- Ⅰ クラスメイトなどが発表するガイドブックの内容を正確に理解することができる。また、その内容についてやり取りをすることができる。

## [○○中学校2年生の目標]

## 【3学期】

## [○○中学校1年生の目標]

## 【3学期】

## 【2学期】

## 【1学期】

## 【作成の留意点】

- ★ 「各学年の目標」は、バックワード(逆算的)に作成すること。
- ★ 全学年の教科書の内容を見とおして作成すること。

具体的な  
イメージ



Work Sheet 1 目標の整理 \_\_\_\_\_ 中学校編

Work Sheet 1

【中学校教育目標】

抽象的な  
イメージ



◀ \_\_\_\_\_ 中学校の外国語(英語)科の指導目標 ▶



[ \_\_\_\_\_ 中学校 \_\_\_\_\_ 年生の目標]

【3学期】

【2学期】

【1学期】



具体的な  
イメージ

## Work Sheet 1 目標の整理 \_\_\_\_\_ 小学校編

Work Sheet 1

【小学校教育目標】

抽象的な  
イメージ

&lt;&lt; \_\_\_\_\_ 小学校の外国語活動の指導目標 &gt;&gt;

[ \_\_\_\_\_ 小学校 \_\_\_\_\_ 年生の目標]

【3学期】

【2学期】

【1学期】

具体的な  
イメージ

## 1.2 「指導と評価の一体化」のための計画について

### 「使える英語プロジェクト事業」の取組み

市町村教育委員会指導主事連絡会では、「使える英語プロジェクト事業」のめざす方向性について学識経験者(教授)からの具体的な示唆を踏まえた指導助言がなされました。

担当指導主事連絡会の様子




【講師】  
大阪樟蔭女子大学  
児童学部  
教授  
菅 正隆 氏



【講師】  
関西外国語大学  
英語キャリア学部  
教授  
松宮 新吾 氏

### ★ POINTS

児童生徒にとって「学んだことを説明することができる授業」や、「学んだことが新しい局面で役に立つ授業」を展開するためには、教員が確かな「みとり」をもって授業に臨む必要があります。

 教員が、児童生徒の学びを的確に評価する方法を持ち合わせて授業に臨むことから「指導と評価の一体化」が始まります。

- 1 教員が授業に臨む際には、その授業終了時点での「児童生徒ができるようになること」をあらかじめイメージしておくことが重要です。
- 1 学んだことを新しい局面で役立てることができるようになるためには、児童生徒が、何を学んだかを自分の言葉で説明できるようになることが必要です。
- 1 中学校の場合、生徒が「本当に学んでいるか」を評価するためには、教えたことを覚えているかを確認するだけのテストから、自らの思考をともなう要素や、既存の知識を組み合わせる要素が含まれているテストに質的な変容を図る必要があります。
- 1 中間や期末テストの問題が「生徒の学んでいる状態を正しく評価できるものか」、また「どのような授業を展開すれば、質的な変容を遂げたテストに臨ませることができるのか」について教科部会等で議論する必要があります。また、これを市町村単位で行うことも有意義です。



### ★ Check Points

- 指導した内容で、児童生徒の「できるようになること」が整理されていますか？
  - 「指導と評価」について学校としての方向性はそろえていますか？
  - 中学校のテストは、生徒の学びを正しく評価できるものになっていますか？
- ☆ 確認できたら **Work Sheet 2** を実際に作成してみよう。



## Work Sheet 2 「できるようになること」の整理(記入例 中学校の場合)

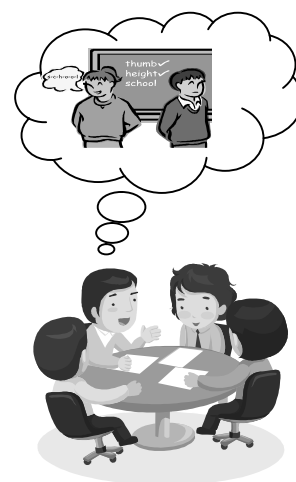
例)教科書:教育出版 ONE WORLD 3

学期 目標	指導ページ (教科書)	指導した内容で生徒が「できるようになること」の一覧
1学期	P06～P09	① 受動態を用いて、建物や名所などについて説明することができる。
自分の町を紹介するガイドブックを書くことができる力をはぐくむ。	P10～P11	② call X Y 「XをYと呼ぶ」や、name X Y 「XをYと名づける」を用いて、何と呼んでいるか説明することができる。
	P12～P13	③ make XY 「XをYにする」を用いて、どうしてそうなったか話すことができる。
	P14～P15	④ 修学旅行等で訪れた場所について紹介する文章を書くことができる。
	P18～P21	⑤ 現在完了形を用いて、継続して行っていることを説明することや、たずねることができる。
	P22～P25	⑥ 現在完了形を用いて、経験したことを説明することや、たずねることができる。
	P26～P29	⑦ 自分の住んでいる町についてプレゼンテーションすることができる。
	P30～P31	⑧ 現在完了形を用いて、経験したことを説明することや、たずねることができる。
	P32～P39	⑨ 感情を込めて、スキットを演じることができる。
	P42～P43	⑩ 馴染みの場所や自分の町について紹介するガイド文を書き、その内容をプレゼンテーションすることができる。
	P42～P43	⑪ クラスメイトなどが発表するガイド文の内容を理解し、その内容について簡単なやり取りをすることができる。
	P44～P45	⑫ まとまりのある内容の英文を読んで「いつ」「どこ」「だれ」「なに」などの情報を整理することができる。
	P46～P50	⑬ ある人物の生い立ちを読み取り、自分の考えや意見を初歩的な英語で書くことができる。

## 【作成の留意点】

- ★ ポイントになる言語材料と既習事項を用いて、どのようなアウトプット活動が可能かを考慮して授業計画を作成しましょう。
- ★ アウトプット活動は「みとり(=評価)」や「活用の時間」の授業で行う活動のイメージとリンクさせましょう。

※教科書会社のホームページには指導計画等の情報が掲載されていますので活用することができます。









## 1.3 「評価のマトリクス」について(中学校対象)

### 「使える英語プロジェクト事業」の取組み

英検の面接に係る指導方法研修の様子




英検3級の面接(二次試験)について日本英語検定協会担当者から研修を受け授業改善につなげました。



【講師】  
駒沢女子大学  
人文学部  
教授  
太田 洋 氏

### ★ POINTS

指導内容と評価方法について偏りやもれがないか確認しながら授業計画を作成しましょう。

 「評価のマトリクス」(→P12)を参考に、4技能のバランスがとれた授業に改善することが大切です。

- I 「Work Sheet 2 (→P8)」の「①受動態を用いて、建物や名所などについて説明することができる」を「外国語表現の能力」における「書くこと」でみとる場合と、「話すこと」でみとる場合とでは、授業内容や評価方法は当然異なります。「評価のマトリクス(→P12)」は、観点別評価と4技能との関連性を整理するためのものです。
- I 「評価のマトリクス」を活用した年間指導計画を作成するためには、「A) 評価規準」「B) 評価方法」「C) 評価時期」のそれぞれについて留意することが必要です。

- A) 評価規準 … 評価する観点は何？評価する技能は何？
- B) 評価方法 … みとりは、ペーパーテストですか？パフォーマンステストですか？
- C) 評価時期 … みとりは、1学期にする？3学期にする？

- I 観点別評価を行う場合、各観点のポイントとなる視点について適切にとらえておくことが重要です。

#### ◎「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

宿題の提出や挙手回数ではなく「積極的にコミュニケーションしよう」とする姿勢を評価します。(書く文章の量や内容、表現の工夫、辞書の活用、何でも挑戦しようとする態度など)

#### ◎「外国語表現の能力」

和文英訳や条件作文ではなく、与えられた条件から自身の考えや意見などオリジナルの内容や表現が使われているかどうかを評価します。

#### ◎「外国語理解の能力」

既習の英文ではなく、初出の英文に対して「聞いたこと」「読んだこと」の理解を評価します。よって、すでに教えた教科書の本文などをそのまま用いて「理解の能力」を判定してはいけません。

#### ◎「言語や文化についての知識・理解」

「言語の知識・理解」では、主に新しく学んだ言語材料(文法や語彙など)を適切に理解しているかどうかを評価します。「文化についての知識・理解」では、英語という言葉、文化的な背景や考え方を理解しているかどうかを評価します。



### ★ Check Points

- 評価の「規準」「方法」「時期」に偏りやもれはないですか？
- 各観点のポイントとなる視点を教員間で共有していますか？
- ☆ 確認できたら Work Sheet 3 を実際に作成してみよう。



## Work Sheet 3 「評価のマトリックス」(記入例)

## 「評価のマトリックス」(3年:1 学期)

\*①、②等は「Work Sheet 2」の数字を表します。

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
聞く	【指導内容と評価方法】 ⑪ 行動観察		【指導内容と評価方法】 ⑫ リスニングテスト	【指導内容と評価方法】 ⑤・⑥・⑧ リスニングテスト
話す	【指導内容と評価方法】 ①・③・⑦ 行動観察	【指導内容と評価方法】 ①・③・⑦ 面接テスト ⑩ パフォーマンステスト		【指導内容と評価方法】 *2学期に評価
読む	【指導内容と評価方法】 *2学期に評価	【指導内容と評価方法】 ⑨ 音読テスト	【指導内容と評価方法】 ⑬ ペーパーテスト	【指導内容と評価方法】 ⑤・⑥・⑧ ペーパーテスト
書く	【指導内容と評価方法】 ④ ポートフォリオ	【指導内容と評価方法】 ②・④ ペーパーテスト		【指導内容と評価方法】 ①・②・③ ペーパーテスト

## 【上記の例での各観点をもとめるポイント】

- ・ 「関心・意欲・態度」では、「言語活動への取組み」と「コミュニケーションの継続」
- ・ 「表現の能力」では「正確な発話」と「適切な発話」
- ・ 「理解の能力」では「正確な聞き取り」と「適切な聞き取り」
- ・ 「知識・理解」では「言語についての知識」「文化についての理解」



## 【参考資料】

評価については、国立教育政策研究所のホームページや、大阪府教育委員会が作成した「中学校における学習評価に関する参考資料」にも資料が掲載されています。

- ・ 国立教育政策研究所 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

## 「評価のマトリックス」( 年: 学期)

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
聞く	【指導内容と評価方法】		【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】
話す	【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】		【指導内容と評価方法】
読む	【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】
書く	【指導内容と評価方法】	【指導内容と評価方法】		【指導内容と評価方法】

共有 MEMO 欄

\* 研修会や教科会議等で「気づいたこと」を書き残す欄です。  
どんどんアイデアを書きたしてください。

